

第1回総合振興計画外部評価委員会 議事概要

日時：8月27日（水）13：30～@和泊町役場結いホール

○総合振興計画の各プロジェクトについて、事務局がプロジェクト振り返りシートに基づいて説明。その後外部委員との質疑を行った。委員の意見は下記のとおり。

1. むうるほうらしゃプロジェクト

- ・プロジェクトの目的が複数あるように思うが、何に一番重きを置いているか。
- ・サイクルステーションの設置場所・時期は決まっているか。
- ・レンタサイクル利用促進商品券など、実際に利用した町民の声を聞いているか。アンケート等を通じて、意見を政策に反映していったほしい。

2. みじらしゃエリアプロジェクト

- ・本事業はR5年度に未実施で、その後継続が困難となっていたが、R5年度以降の動きは。
- ・事務局の振り返りの中でニーズ調査が必要だったとあるが、本事業の対象に含まれる一人暮らし高齢者や空き家の有効活用を望む方々の声を聞いているか。
- ・Uターン、Iターン者への貸し出しも想定していると思うが、ニーズ調査はしているか。
- ・70～80代の高齢者から、話をしたり等気軽に集まる場所として、公民館は遠すぎるので、一人暮らしではなくシェアハウスのような形をとれないかという話も聞いたことがある。
- ・町中から離れた一軒家在住の高齢者に移動してもらうのではなく、集落のシェアハウスで集まって家庭菜園などできるつながりができれば、新しい可能性もあるだろう。

3. まちゅんどプロジェクト

- ・島の特産品の物産展への若者の参加件数が増えたとあるが、どの程度増えたのか。
- ・R6年度やR7年度に企画している漁業体験とはどのようなものか。
- ・Uターンで島にいる方の年齢層は。Uターンの方はどのような形で帰島するのか気になる。
- ・島に対する感情は小学生の時よりも中・高校生の方が強いのではないか。もっと積極的に中高生を巻き込む企画を組んではどうか。
- ・イベント参加者が固定化されるとあったが、興味のない人は本当にはないので、そういう層に島への興味を持ってもらえるようにした方が良いのでは。
- ・高校生から見ても企画自体は楽しいものが多く、実際参加しても楽しいが、告知等をするポスターを見た時点では内容が伝わらなかったりして、ちょっとつまらなさそうと思ってしまふのかもしれない。告知の仕方が大事なのでは。
- ・中高生は部活で忙しいのでは。やっぱりそもそも子育て世帯や親子で一緒に参加するような世代を巻き込んで興味を広げたり、逆に子供の思いを大人が感じられる環境を作るのも大事なのでは。

4. みへでいろプロジェクト

- ・軽トラマルシェはすごく好き。農業祭ができない年もあったのでありがたかった。
- ・島野菜の調理方法を知らなかったりするが、みんなで作ることで知ることができたりする。野菜を作る時だけでなく、食べる段階での取組も入ってくると嬉しい。
- ・農業体験の企画に参加者がなかったとあったが、4Hクラブ的な観点では、これまで沖永良部でなかったもの、例えばトマトのハウス水耕栽培だったり、今の気候に合わせて作れる作物を模索していきながら、そういうものの栽培を身近に体験できる場所としていけば、参加者も増えるのではないかとと思う。
- ・学校のクラブ活動が地域に移行していることにも関連するが、実際に育て、販売するプロセスに携わるプロジェクトをやってはどうか。
- ・知名町では毎年秋に大型重機の体験会などやっている。大型の機械が子どもには危険という話もあったが、私もジャガイモ農家の祖父のトラクターに乗せてもらったりした。そういう経験が子どもたちの記憶に残れば響くのではないか。これは農業に限らないが。
- ・この事業の趣旨から外れるかもしれないが、私のもとにいる大学生をジャガイモの掘り取り

時期に畑に連れ出して、作業手伝ってもらったりしたが、大学生の彼らがそれで興味を持つかといわれると難しい面がある。農家の息子で大学へ進学した学生や、農学部学生、自分で農業を経営したく経営学科で勉強している学生もいる。本業で農業をやってみたいが土地もない学生が実際にフィールドに出てくるような教育プログラムを作り、和泊町は場所を提供するという形で、今後広げていくこともできるのではと思った。

- ・給食センターの食材産地をまとめたデータもあるので、給食を食べた島の子どもたちが1年間でどれくらい島のものを食べたのか、冬くらいにはまとめて和泊町の方に還元する。給食センターの人手も足りないと思うが、どの作業に時間がかかるのか等、ボトルネック探しに協力したい。
- ・ポケットマルシェという農家のECサイトを運営している雨風太陽という法人がいる。2月に鹿児島県の事業で20〜30代の方々が就農体験をする交流事業がある。ぜひ何か連携したいのでよろしく願いしたい。

5. むうーるし、ふでいらさープロジェクト

- ・小中学生による子育て応援隊は2組だったとのことだが、参加者と受け入れ先の声や、この計画の経緯・発想について教えてほしい。
- ・子どもの居場所づくりをしている者として、未就学児がいる家庭は自分の時間確保がどうしても後回しになる。ファミリーサポートセンター事業の充実が本当は大事で、これもこの事業の中で拡大してもらえるとありがたい。
- ・家庭の自由な時間づくりの観点で、パパとプレパパの育児力の向上のカギが料理教室だけにあるかという疑問が残る。自分で買い物に行き、それと冷蔵庫にあるものを組み合わせて作り、片付けまでするという形で、母親にもっと長い時間自由な時間を提供することもできると思う。まずは料理教室で良いと思うが、実際に子育てをしている方の声を取り込みながら、料理ができるのであればもっと他もというような形で、核家族化の進む将来に向け、男性陣は飲み歩いてばかりではなく、家で子育てもするという風にして行けたら。
- ・夏休みの子育て応援隊活動の参加者が少なかった要因に、小中学生の部活動の遠征等と重なり、調整がうまくいかなかったとあった。今回夏休みにしている理由と、今後どうするのか気になった。

6. ようていあしばープロジェクト

- ・児童生徒数減少に伴う学校の統廃合の協議とあるが、これの状況は。
- ・総合交流施設は計画中止とあるが、この事業自体が終了なのか等、今後の方向性について知りたい。
- ・事務局の説明に補足だが、箱物を作らなくても、どうスポーツを生涯活動としていくかを検討することが大事であり、教育委員会の方ではハードが止まってもソフトはきちんとやっているという点は付け加えておく。

7. あたらむープロジェクト

- ・今後の方向性の中にフリーマーケットや譲渡会とあるが、すでに繰り返し活動している団体もあるので、そのあたりとの連携は考えているか。
- ・子どもの居場所づくりの観点で制服のリユースをやっており、これまで何度も役場に提案しているが、あまり協力的ではないと感じている。うちの方にやりたい方法があるので、良かったら協力できれば良いと思う。
- ・本事業と直接関係ないかもしれないが、ビーチクリーンで拾ったごみの分別等の状況は。
- ・今やっている家庭用ごみ処理機は消費者の手元にあるごみを処理施設に運ぶ量を減らす取組だと思う。一方、総合計画には将来の姿として、市場で量り売りとも書かれているが、消費者の手元に渡る前のごみを減らす取組は考えているか。
- ・話を聞いていて、私は夫婦で飲食店をしており、畑もあるので、基本的には取れた野菜を店や家で使うようにしており、正直我が家のごみは少ないと思う。ごみの減量化の観点では、畑で野菜を作り、食べ、余れば周りに配り循環していくというのはやはり良いなと思ってきた。

- ・農家で使うマルチも紙にすれば放っておくと土に還るだろうし，農作業も楽になるので，余計な資材を減らせば，ごみをわざわざ買ってきて燃やすことも不要になる。それはこの島にとっては良いものなのかなと思う。
- ・農家はマルチを貯めて捨てに行くと言っている。マルチの処分料も高額と聞いており，農家のために安くしてほしい。
- ・近年ネットでの購入が増えている。離島ならではの点，小さなものでも船や飛行機で来るせいか，段ボールや紙の量が多い。これからに向けて，その点も考えてもらいたい。
- ・私の地域では声を掛け合ってクリーンセンターへの持ち込みをしている。そういうのがない高齢者の方々は家の周りに貯めてあったりするので，各地域の方々にボランティア精神で努力してもらい，個人には集荷するところまで運んでもらい，あとは持ち込みを行う等できたらと思う。週に1回でも，月に1回でも試みてもらえたら良いなと思う。
- ・鹿児島市内では段ボール回収が2週間に1回と少なく，できる限り燃えるゴミとして出してそれでも溜まったものは車に積み込んで施設に持って行っていた。ところが熊本に来てから，毎週決まった曜日に紙ごみを回収してくれるようになった途端，紙と燃えるごみを分けるようになり，回収袋が有料なものもあり，以前は燃えるゴミの中身は結構紙だったが，子どもの落書き等も紙ごみにできて，結果燃えるゴミが減った。なので，行政が回収に来てくれる頻度，働きかけで人の暮らしのパターンは大きく変わるのではないかと考えている。

○事務局より，第2回は追って調整をする旨と，委員評価シートの提出を依頼し，終了。

(以上)